

大豆栽培における難防除雑草「ツユクサ」の防除対策

～ ツユクサ減らして手取り除草をラクに ～



要約

大豆の晩播狭畦栽培とツユクサに効果のある除草剤散布を組み合わせることで、大豆栽培におけるツユクサの発生を減らすことができます。

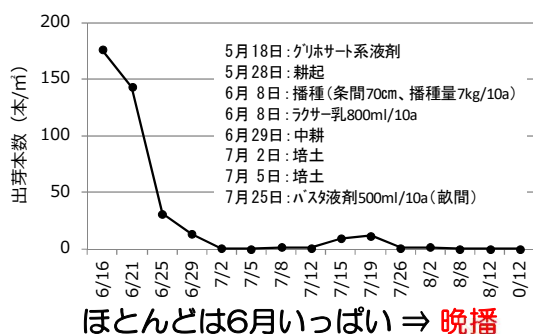
研究成果の概要

1 背景・目的

県内の大豆生産者に「大豆栽培で一番困っていることは？」と聞くと、だいたい“雑草”と返ってきます。「一番困っている雑草は？」と聞くと、だいたい“ツユクサ”と返ってきます。大豆を機械で収穫するときに、大豆と一緒に雑草が機械に入ると雑草の茎や葉の汁が豆粒について汚くなり、品質が低下します。そのため、収穫する前に雑草の抜き取りが必要となりますが、その労力たるや大変な負担です。その大変な雑草“ツユクサ”の防除対策を明らかにしました。

2 研究内容

1. ツユクサはいつまで出芽するのか？



2. ツユクサに効く除草剤は？



3. ツユクサを減らせる栽培方法は？



上の表や写真のようにツユクサの生態、除草剤の効果、栽培方法などを検討した結果、下表のとおりツユクサ防除技術をまとめました。

時期	播種前 (1回は播種前日～5日前)	6月第4～5半旬	播種後	～大豆本葉展開始期 (ツユクサ発生始期～2葉)
内容	播種前ツユクサ出芽後 プリグロックスL 600ml/10a散布	晩播 狭畦 播種	土壌処理 除草剤散布	(発生に応じて) パワーガイザー液剤 300ml/10a散布
目的	栽培期間中の発生数低減	遮光効果早期獲得 中耕培土不要	出芽数低減	発生数低減 生育量低減

3 成果の活用等

現地のツユクサ多発圃場でこの防除技術を導入したところ、慣行に比べ手取り除草時間は約6割削減、大豆の収量は約3～6割増加しました。